

PALEO 研究最前線

- 「地球環境史学会」 (=通称, PALEO 学会) 発足シンポジウム -

場所: 東京大学大気海洋研究所 講堂

(〒277-8561 千葉県柏市柏の葉 5-1-5)

日時 2012年11月9日(金) 午後1時 - 10日(土) 午後1時

11月9日(金)

13時05-20分 川幡穂高(東京大学)(Paleo10)

「地球環境史学会」 (=通称, PALEO 学会) 設立と今後の発展

13時20-35分 高橋孝三(北星学園大学)(Paleo-oceanography)

気候変動と極域でのシグナル増幅: 北極海およびベーリング海の古海洋復元

13時35-50分 阿部彩子(東京大学)(Paleo-climatology)

氷期サイクルの謎とそのモデリングの現状

13時50-14時05分 川村賢二(国立環境研究所)(Paleo-climatology)

極域氷床コアによる古気候・古環境解析

14時05-20分 中塚 武(名古屋大学)(Paleo-hydrology)

樹木年輪セルロースの酸素同位体比を用いた古気候学と歴史・考古学の連携の推進

14時20-35分 米延仁志(鳴門教育大学)(Paleo-ecology)

日本における年輪年代学の現状

14時35分-50分 横山祐典(東京大学)(Paleo-climatology)

海水準と気候変動の相互作用

*** 休憩 ***

15時15-30分 岡崎裕典(九州大学)・池原研(産業技術総合研究所)
(Paleo-environments)

古環境研究の辺境から標準へ: 過去5万年間の日本とその周辺海域

15時30-45分 山崎俊嗣(東京大学)(Paleo-magnetism)

古地磁気・岩石磁気学と地球環境史研究の強い繋がり

15時45分-16時 入野智久(北海道大学)(Paleo-seismology)

古環境アーカイブとしての半遠洋性泥堆積の連続性とイベント性

16時00-15分 黒田潤一郎(JAMSTEC)

地球が経験した大規模岩塩の形成と乾燥気候

16時15-30分 村山雅史(高知大学)(Paleo-oceanography)

インド洋の古海洋学

16 時 30-45 分 井龍康文（東北大学）(Paleo-environments)

古腕足動物殻，古海洋環境復元に使える部分，使えない部分

16 時 45 分-17 時 鈴木淳（産業技術総合研究所）(Paleo-environments)

サンゴ骨格と気候変動解析

17 時 00-15 分 山岡香子（産業技術総合研究所）(Paleo-hydrogeology)

海嶺拡大速度と過去の熱水系

*** 懇親会（2 時間） ***

11 月 10 日（土曜日）

10 時 05-20 分 西 弘嗣（東北大学）(Paleo-oceanography)

浮遊性有孔虫化石と環境変動

10 時 20-35 分 多田隆治（東京大学）(Paleo-climatology)

今、何故 Paleo 学会か？Paleo 学会に期待するもの

10 時 35-50 分 山本正伸（北海道大学）(Paleo-oceanography)

別府湾海底堆積物を用いた高時間解像度水温復元

10 時 50-11 時 05 分 池原実（高知大学）・野木義史・菅沼悠介（国立環境研究所）

南大洋における新たな IODP 掘削研究への展望

11 時 05-20 分 山田和芳（早稲田大学）(Paleo-limnology)

湖沼年縞を用いた古陸水研究の新展開

11 時 20-35 分 LallanP. Gupta (JAMSTEC) (PALEO10)

古海洋の研究を発展させる IODP アーカイブコア

11 時 35-50 分 鈴木庸平（東京大学）(Paleo-microbiology)

Paleo-microbiology への展開

11 時 50 分-12 時 05 分 尾崎和海（東京大学）(Paleo-environments)

原生代大気海洋の酸化還元状態と生物地球化学循環のモデリング

12 時 05-20 分 佐藤時幸（秋田大学）(Paleo-oceanography)

古海洋研究に果たす微化石の役割

13 時まで 川幡穂高（東京大学）

総合討論

なお、「地球環境史学会」

第 1 回評議員会 2012 年 11 月 9 日（金）午前 10 時-11 時 30 分

第2回評議員会 2012年11月10日（土）午後2時-16時30分
に開催されます.